

Title	トイレタリー業界における寡占企業の競争分析
Sub Title	
Author	川添衆(Kawazoe, Shiyuu) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第400号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0400

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	川 添 衆	主査	関 谷 章
	(ライオン株式会社)	副査	嶋 口 充 輝
所属ゼミナール	青 井 倫 一 研		青 井 倫 一

トイレタリー業界における 寡占企業の競争分析

本論文では、日本のトイレタリー業界の花王対ライオンの競争に着目して、成熟市場において寡占状態にあるマルチプロダクトメーカーの競争を分析している。主要な研究テーマは、第1に花王とライオンの過去の競争を分析しその評価を行なうこと、第2にこの分析に基づいて両社それぞれの立場から、今後の競争をどのように展開すべきかについて検討することの2つである。

まず市場構造分析により、製品別市場の成熟化の度合、参入企業の種類、寡占化の進行状況、企業間競争状況を分析し、市場の特性を明らかにしている。この競争環境の下で、花王とライオンの過去の競争を比較しその相違点を分析した。その競争結果として、両社の企業全体の成長率と業績には格差が生じている。

次に収益構造分析によって、両社がどの市場からどれだけ利益を獲得しているかを明らかにしている。また感度分析を行ない、各製品別市場の利益に対する影響力の大きさを比較している。このデータに基づいて、将来の収益構造の変化をシミュレーションモデルを構築して予測すると、収益構造が悪化する可能性の高い市場が存在することがわかった。そこで両社それぞれの立場で、利益を増加するための代替案を検討した。また、マルチプロダクトメーカーにとっては、各製品別市場ごとの競争も大切であるが、トイレタリー市場全体での競争をどうするかが、より重要な問題である。そこで、経営資源の再投資の方向性と、競争相手との協調の可能性についても検討している。